



河口貴哉さん (kawaguchi takaya)

1983年生まれ、広島県育ち。

広島県で青果運送会社に勤務。

吉賀町に2012年移住。

#孫ターン#広島県#ハウス栽培

－なぜ吉賀町に孫ターン？

前職はトラックの運転手をしていました。一日の内、20時間をトラックの車内で過ごし、何日間も家に帰れない生活が当たり前でした。そんな生活が続くと疲れがたまり、長時間の運転になるとウトウトしながら運転することもありました。

結婚して子どもができた時に「このままだといつか事故を起こしてしまうかもしれない。子どもの為にも転職をしよう。」と思い退職しました。

高校生の頃、吉賀町で農業をしていた祖父が亡くなって、父親とふたりで祖母の農作業を手伝いに来ていたことと、青果輸送の仕事をしていたときに農家さんを見て「農業っていいな」と思っていたこともあって、祖母が住む吉賀町に移住して農家になろうと決意しました。高校生の頃は自分が農家になるとは全く思っていなかったけどね（笑）。

引っ越し当手を振り返り、奥様のなつみさんは「何も不安は無かったし、農業をすることにも抵抗はなかった。」といいます。

「第一は子どもや地域の為に稼ぐこと。自分達のやりたいことは老後でいい。」というおふたり。3人のお子さんを育てながら、ご夫婦で協力し合い、農業を行っています。

現在はハウス栽培が中心で小松菜に水菜、ほうれん草、菌床しいたけ、露地栽培でアスパラ、お米を栽培。ハウス栽培は無農薬・無化学肥料で土づくりに重要な堆肥は自分たちで原料から集めて作っています。また、大型冷蔵庫を導入して鮮度保持に努めるなど、手間のかかったこだわりの野菜を出荷しています。



快く撮影に応じてくれた河口さんご夫婦

－吉賀町での生活について

就農したての頃はがむしゃらに農業をしていました。“農業は儲からない”というイメージを変えたくて「自分は絶対に農業で成功するんだ！」と意地になっていたんだと思います（笑）。

その頃は食事時間や睡眠時間もほとんど取れず、一日中作業に追われていたので気持ち的にも余裕がなくて夫婦喧嘩もしょっちゅうでした。働けば働くほど稼げると思っていたのですが、頑張り方を間違えていたんでしょうね。

約一年が経った頃、このやり方では長く続けられないと思い、やり方や考え方を変えました。作業効率を考えて働くようになり、余裕も思いやりも持てるようになったので、今では夫婦喧嘩は全くありません。毎日4時半に起きて16時には作業を終え、翌日の予定を立て、21時には寝る生活をしています。食事や睡眠、家族の時間もしっかりとれていますよ。

作業に追われていたあの頃には二度と戻りたくないけど、あの一年があったからこそ自分たちの本気度が地域の人たちに伝わったんだと思っています。寝ずに作業しているのを見てくれていて「大丈夫か」とか「手伝おうか」と声をかけてくれるようになりました。自分達を受け入れてくれたんだと嬉しかったです。ここでの生活は居心地も雰囲気がとても良く、集落の人たちもいい人ばかり。毎日「幸せだな～」と思っています。

将来は事業を拡大して地域雇用を産んで、仲間と一緒に何百年も地域を守っていける農業をしたい。そして、次世代の人たちが「農業を継ぎたい」と思えるようなシステムを作りたい。そういったカタチで自分を受け入れてくれた地域に恩返しをしていきたいと思っています。

－これから移住・定住を考える人へメッセージ

移住を考えている場所があるなら、まずはその場所に行くことです。

出来れば年間を通して何度か訪問出来たらよいと思います。そうすれば地元の人との繋がりも出来るし、その土地で自分が生活したいのかしたくないのかが分かってくると思います。それで気に入れば移住に向けて本格的に動けばいいのです。

暮らしに関しては、いろいろこだわりがあるかもしれませんが、生活していくことが大事だと思うので、まずは自分の生計を一番に考えて行動すると良いと思いますよ。

